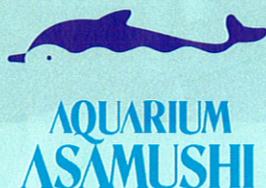


海・川・湖その世界とのふれあい

マリンズノー

MARINE SNOW

No. **19**
1998.12.15



● 目次

リニューアルオープンと 開館15周年を迎えて…	1	催し物……………	5
新施設とリニューアル概要 ……………	1	浅虫の海の生物たち(19) ……………	6
新しい仲間ラッコが来た ……………	3	浅虫水族館日誌抄録……………	6
トピックス……………	4	動物紳士録……………	7

リニューアルオープンと開館15周年を迎えて

館長 菅野 溥 記



平成10年4月1日に第10代目の館長に就任しました菅野です。関係者の皆様、今後のご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、青森県営浅虫水族館は平成10年に開館15周年を迎えるに当たり、より楽しく魅力ある水族館とするため、ラッコを新たに導入し、海獣館を新設するとともに平成9年11月4日から休館して館内のリニューアル工事を進めてきました。これらの工事が終わり、平成10年4月24日には、多くの来賓のご出席のもと、木村県知事や地元浅虫の和幸園園長、浅虫保育所の園児代表等6名の方々のテープカットにより盛大にリニューアルオープンを行うことができました。ラッコの導入、リニューアル工事そしてオープニングセレモニー等

が無事できましたのは、関係園館の皆様はもとより多くの関係者の皆様のご理解とご協力のおかげによるものです。ここにあらためてお礼申し上げます。おかげさまで、リニューアルオープン以来、県内外のお客様から、ご好評をいただいております。

また、青森県は本年7月19日に、三内丸山遺跡において「文化観光立県宣言」をしたところですが、水族館にとっても7月23日に当館開館15周年を迎え、さらに10月11日には開館以来500万人目のお客様を迎えるという記念すべき年となりました。

当水族館の管理運営にあたっている(財)青森県企業公社は、本県観光の振興と社会教育の向上を図り、公共の福祉の推進に資することを目的としております。最近では、自然、環境と人間との共生の重要性が認識されるようになり、種の保存と繁殖や生命の尊さを知ってもらうこと等が水族館の使命ともなっています。

これからも職員一同、これらの目的、使命を果たすとともに、お客様に喜ばれ感動を与えられる水族館となるよう一層努力したいと考えています。

新施設とリニューアル概要

太田 守 信

当館では、平成9年11月4日から翌10年4月23日まで全館休館とし、開館15周年に向けて、海獣館の増設とリニューアル工事を行いました。(海獣館は、平成9年5月13日より工事開始)

海獣館は、総工費5億2千万円、地下一階、地上二階建ての鉄筋コンクリート造りで、建築面積は、650.84㎡です。地下一階は、ラッコのろ過器室と循環ポンプ置き場で、一階がアシカ・アザラシ・ペンギン・ラッコの展示スペースとなっています。二階にはラッコプール専用の空調機器や水温調節機が設置されており、屋上が3基(アシカ・アザラシ・ペンギン)の密閉型ろ過器置き場です。

海獣館の展示水槽は、水槽面(アクリル)が床から立ち上がっているため、動物たちが水中を泳ぐ姿や陸場でくつろぐ様子を間近で見ることが出来ます。観覧通路は、より多くのお客様に動物を見ていただくために、対面の一方通行とし、行き

と帰りの通路に段差(60cm)を設けています。また、ラッコの水槽にはマイクを設置し、ラッコの鳴き声などを観覧通路で聞くことが出来るようにしました。



左端が海獣館



海獣館内の観覧通路

水槽名	展示面積(㎡)	水量(t)	水深(m)
ラッコ	59.78	106	3.0
予備用ラッコ	12.31	6	1.0
アシカ	56.28	59	2.5
アザラシ	23.42	28	2.5
ペンギン	24.77	24	2.5

一方、リニューアル工事は総工費2億4千万円で、水槽改造、擬岩の改修、館長室(増築)や事務室の移転、団体休憩室の新設(120名収容)、エントランスホールの拡張工事(コンクリート壁撤去)などを行いました。

水槽の改造では、人気コーナーの一つであるタッチ水槽の面積を、約3倍弱(アクリル水平距離旧タッチコーナー9.5m、新タッチコーナー24.5m)に拡大しました。また、5個の汽車窓風水槽を一本化して、大型の熱帯雨林水槽に改造し、その周辺は、ディスプレイの変更に加えて、観覧通路にも擬木等の装飾を施し、より自然に近い景観を再現しています。



新タッチコーナー

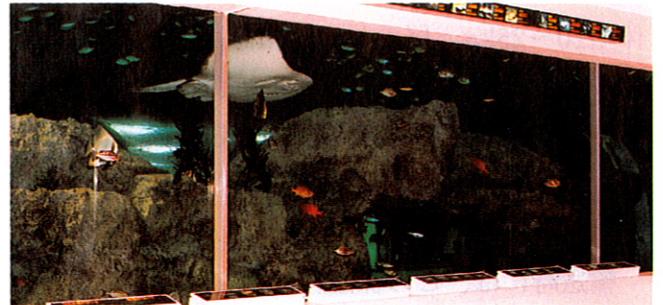


熱帯雨林コーナー



熱帯雨林コーナー

擬岩改修工事では、以前マリンガールの餌付けショーを行っていた、水量430tのトンネル水槽の擬岩を全面的に改修し、温帯性の魚たちの群泳風景がよりリアルに再現できるようにしました。併せてトンネル内部の補強用鉄骨を一部撤去したことにより、視野が広がり、より一層の海中散歩気分が味わえるように生まれ変わりました。



海洋水槽

エントランスホール拡張工事では、壁を撤去したことによって、以前の暗くて狭い雰囲気が改良され、開放感のあるスペースとなって、お客様の流れもスムーズになりました。また、団体休憩室の新設に伴い、館長室及び総務課事務室を一階に移転し、入口付近には総合カウンターを設けて、お客様により細やかなサービスができるようにしました。



エントランス・ホール

今回の工事は、ラッコの搬入や改修が行われる水槽内の生物移動日時が、工事施工計画と密接に関係しているため、工事の進み具合に大変気をつかいました。このため、週一回、施工業者と工事進捗状況等の定例会議を開催し、綿密に工事を進めていきました。その甲斐あって、ラッコを始めとする新しい生物の搬入や、魚類の移動も滞りなく進み、平成10年4月24日、無事にリニューアルオープンの日を迎えることが出来ました。

新しい仲間ラッコが来た

成田秀春

ラッコは、北海道東部からカリフォルニア半島までの北太平洋に生息し、主にウニ、カニ、貝、魚等を食べています。成長した雄の体長は1.2～1.5m、体重25～40kg、雌の体長は、1.0～1.4m、体重20～25kg、尾の長さは雌雄共に30cm程になります。冷たい海に住むラッコは、体温を保つため1日に体重の20～25%もの餌を必要とし、また体の保温性を維持するため、密生した体毛をいつもグルーミング（毛づくろい）しています。

輸送時には、この保温性に富んだ毛皮があだとなる事があります。それは、輸送中の振動や音に興奮して体温が異常に高くなり、その熱のために死んでしまうことがあるからです。そのため高さ76cm、横68cm、長さ110cmのペット用ケージに入れ、氷を直接ラッコの体に触れないようにケージの下や外側に敷き詰めた上で、冷凍食品等を運ぶ冷凍10tトラックの荷台の振動の少ない場所に固定しました。輸送中は、「気を紛らわせる」、「体温を下げる」、「水分の補給」などの目的で氷を食べさせたり、空腹になると騒ぎだすので餌を与えるなどして、全頭無事に搬入することができました。



1月15日浅虫水族館に到着したユウ

リニューアルオープンと共に仲間入りしたラッコたちを紹介します。最初に搬入したのは、よみうりランド海水水族館から15時間トラックに乗って来た、1995年5月24日生まれの雄『ユウ』です。体が一番大きくて、顔の周辺が白く、好奇心旺盛なわりに臆病者です。プール左端で、うつぶせ状態で昼寝をすることがあります。次に松島水族館

から、1997年2月11日生まれの雌『モモ』が来ました。頬のあたりが白くて一番体が小さく、ただ今成長中です。遊び好きなのか、いたずら好きなのか、掃除をする時、長靴を噛んだり、ホースやブラシなどにじゃれついてきます。最後は、登別マリパークニクスから来た、1992年頃生まれの雌『ナスビ』です。顔から頭にかけて白く、のんびりやで、何事にもマイペース。ウチムラサキという貝が大好きです。



左ユウ 中モモ 右ナスビ

当館で与えている餌は、イカ・アジ・ウチムラサキガイの3種類で、ユウは6kg、モモは4kg、ナスビは5kgを、一日5回に分けて食べています。飼育を始めて、ラッコも水槽に慣れ、私も飼育に慣れてきた時に、バケツを取られるハプニングがありました。餌を与え始めて数分後、ユウが一瞬のうちに餌の入ったバケツを持って逃げ、腹の上にバケツを置いて悠々と餌を食べ始めました。その光景を見ていたお客さんは、バケツを取られたのがおかしいのか、餌を食べている姿が面白いのか、とても喜んでいるようでした。そして、餌を食べてしまうと帽子のように頭に被ったり、手に持ってプール全体を元気よく泳ぎ回りバケツを回収するのに悪戦苦闘しました。その後、注意して餌を与えていますが、今では3頭のラッコたちがバケツを狙うことがあり、ハラハラ、ドキドキの毎日です。

最後になりましたが、今回のラッコ搬入にあたり、ご指導、ご協力いただいた、よみうりランド海水水族館、マリンピア松島水族館、登別マリパークニクスの皆様から感謝申し上げます。

入館者 500万人達成

平成10年10月11日、開館以来の入館者数が500万人を達成しました。これもひとえに、お客様そして関係者皆様方のご支援、ご協力のたまものとして厚くお礼申し上げます。

開館から15年目での500万人達成は、嬉しいニュースであると共に、大きな節目となるものです。そこで、500万人目のお客様には、認定書の他に11月1日から就航した青森・沖縄往復ペア航空チケットを始めとするこれまでにない豪華な景品を差し上げました。お客様は予期せぬ突然の幸運に声も出ないくらいの喜びようでした。ご協力いた

だいた日本エアシステム、浅虫温泉関係者の皆様には、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

今後とも水族館としての役割を認識し、皆様に一層親しまれ、愛される水族館でありますよう努めてまいりますので、どうぞご期待ください。



新イルカショー「森と海」 —映像による演出—

平成9年7月から、新イルカショーを開始しました。タイトルは「森と海」です。今回はショーステージの壁面にプロジェクターから映像を映し出すという演出を取り入れました。テーマは「水の循環」。海からの水蒸気は雲となり、山と出会い雨になり、そして地上へと降り注ぎます。長い間生命を育ててきた水の循環を紹介しながらショーは進行します。映像は雲・山・川・海など美しい自然環境を撮影したもの、そしてイルカの体について解説するものなどを使用しました。

もちろんお客様は、実物のイルカをご覧になりたいというわけですから、映像をどの程度使いイルカの演技とどう組み合わせるか、試行錯誤しました。いざスタートしてみると、やはり映像が目ざわりだなどの酷評もあり、まだまだ改良すべき点も多いようです。

これまでの演出は、ステージ上にテーマに合わせた絵柄のディスプレイを配置し、場面の切り換えは照明による明暗や色の変化などで表現してきましたが、映像を加えた演出を上手に利用することにより、一層ショーアップすることができるのではないかと思います。

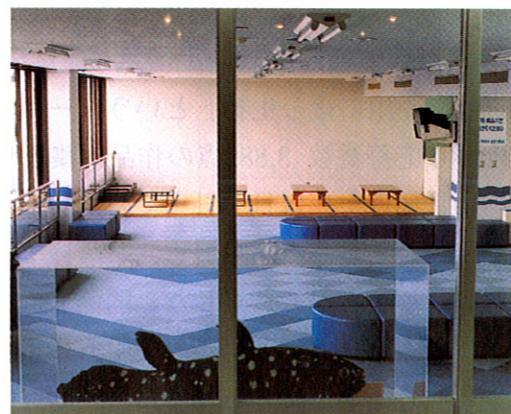
「休憩室」ができました

今回のリニューアルの一環として、かねてより要望が強かった「休憩室」を新設しました。

これまで館内には、雨天時に百人単位で利用できるスペースがなく、特に学校団体の皆様にはご不便をおかけしていました。

新しい休憩室は2階に上がってすぐの所であり広さが7.5m×14.5mの146㎡（約百畳分）です。室内の一部を畳敷きの小上がりとし、残りはタイルカーペット張りになっています。また、テーブルやスツールもたくさん用意してありますので、団体に限らず、ご家族連れの方々の昼食やコーヒ

ーブレイクなどにご利用できます。なお、定員は約百名程度となっていますが



日によっては混雑が予想されますので、事前に利用希望の時間や人数を予約していただければ、こちらで調整した上で、優先的にご利用いただけます。皆様の多数のご利用をお待ちしています。

サマースクール

昨年に続き2回目となったサマースクールは、小学4年生から6年生を対象として、8月9日に行われ、37名が参加しました。

テーマは「海岸の生き物たちを観察しよう」。磯と砂浜の生き物の違いを観察するために、それぞれバケツとシャベルを持ち、砂浜は浅所海岸、磯は夏泊大島海岸で、採集しました。砂浜では、ヤマトオサガニやアナジャコ・ソトオリガイ・ユビナガホンヤドカリなどを夢中で掘り、中には顔からお尻まで泥だらけにする子供がいました。また磯では、タイドプールになっている所の石を寄

せて、ドロメやイソガニを見つけ追いかけて回す子供たちの楽しそうな姿が見かけられました。採集した生物は、図鑑で名前や生息域などを調べ、最後に元の場所に返して、和気あいあいとした雰囲気の中で終了することができました。



夜の水族館見学会

10月3日、17日、24日の3回、「夜の水族館見学会」を実施しました。これは、飼育係が魚や動物たちの「夜」の様子を説明しながら、館内をご案内するというもので、昨年に続いて2回目です。普段は見られないものが特別に見られるというのは、やはり好奇心を刺激するらしく、参加者は昨年を大きく上回り、10月3日は160余名、17日は230余名、最終回の24日は250名を超えました。

見学はグループに分かれてスタートしましたが1グループ50名近い参加者を前に、担当者は説明に汗だくでした。でも、闇の中で光るサンゴを見

つめる子供達の不思議そうな表情を見たり、「説明が聞けて楽しかった。またやって欲しい。」という感想を聞くと、来年はもっと内容を充実させ、より多くの方に水族館の楽しさを知っていただくように頑張ろう、と思っています。



第13回浅虫水族館図画展

「海や川に棲む生物」というテーマで、165園校から応募総数3,889点の作品が集まり、平成10年10月18日から11月30日までの間、図画展を館内で開催しました。図画展も、お蔭様で今回13回目を迎えることができました。関係者のご協力に感謝申し上げます。審査員の先生方によりますと、「今回も応募して下さった3,889点の作品一つ一つが我々を悩ます秀作ぞろいで、どの作品も絵の技法にとらわれることなく、感動を素直に表現している絵ばかりです。」とのことでした。

また、この図画展は我々職員にも多くのことを

学ばせてくれます。今、館内で子供達の目に何が映っているのか、何に興味があるのか等、様々なことを教えてくれるからです。

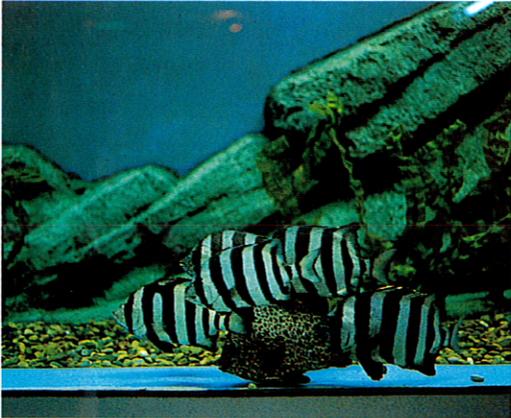
浅虫水族館図画展は子供の創造力、個性を生かした独自性にこだわり、今後もさらに継続していきたいと思ひます。



(19) イシダイ

Oplegnathus Fasciatus

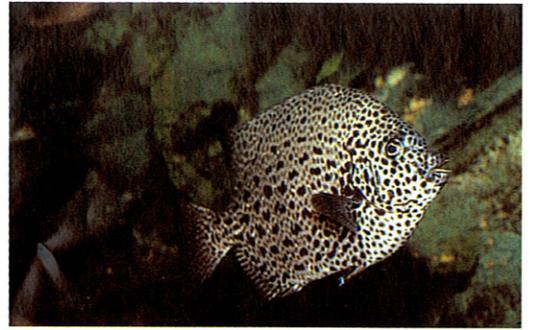
夏になると5～10cmの白地に7本の黒い横じまのある魚が岸壁などでよく見られます。イシダイという魚で、日本各地に分布しています。特に西日本に多く、青森県沿岸には暖流に乗ってやって来ます。青森では「シマダイ」と呼んでいます。スズキ目イシダイ科の魚で成魚は、80cmまで大きくなり、横じまが消え、口先が黒くなり、「クチグロ」とも呼ばれます。ウニやサザエ、巻貝、フジツボなどの硬い殻をもったもので



は、なんでもつつく習性をもっています。この習性を生かして、以前当館では魚のショーを行っていました。

も噛みくだいて食べてしまいます。

その秘密は丈夫な歯にあります。幼魚のうち



イシガキダイ

Oplegnathus punctatus

は、なんでもつつく習性をもっています。この習性を生かして、以前当館では魚のショーを行っていました。

イシダイの仲間にイシガキダイという魚がいます。イシダイほど数は多くありませんが、夏になると見られます。無数の黒い斑点が石垣のように見える事から、その名がついたようです。食性は同じで、成長すると80cm程になり、斑点が消え、口先が白くなることから「クチジロ」と呼ばれています。どちらも磯釣りの対象魚とされ、たいへん人気のある魚です。

浅虫水族館日誌抄録

- 97.4.12 RAB「フレッシュさん」取材
- 6.26 東通村岩屋漁協よりココノホシギンザメ搬入
- 7.16 スルメイカ展示（～9/30）
- 8.22 ウミガメ（アカ2・アオ2）水産部開運丸にて放流
- 24 NHK「夏休み最後のイルカショー」取材
- 9.8 佐井村牛滝漁協よりイトヒキアジ・イタチザメ搬入
- 18 NHK「イルカの訓練」取材
- 10.1 NHK「仔イルカ」取材
- 11.2 RAB「イルカと記念撮影」取材
- 3 ABA・よみうり新聞「イルカと記念撮影」取材
- 4 リニューアル工事のため閉館
- 13 後潟海岸にナガスクジラ死亡漂着
- 12.26 海洋水槽の魚類取り上げ移動
- 98.1.15 よみうりランド海水水族館よりラッコ搬入
- 3.11 マリンピア松島水族館よりラッコ搬入
- 20 登別マリンパークニクスよりラッコ搬入
- 3.28 ABA「浅虫水族館の裏側」放映
- 4.19 油壺マリンパークよりタカアシガニ搬入
- 24 リニューアルオープン
- 25 パネル特別展「海に入った獣たち」開催（～8/31）
- 5.9 東通村小田野沢よりゴマフアザラシ保護搬入
- 6.8 RAB「湾内のカマイルカ」取材
- 18 下関水族館よりカブトガニ搬入
- 23 宮内庁生物学御研究所へリュウグウハゼ・キヌバリ搬出
- 7.8 スルメイカ展示開始（～8/31）
- 18 RAB「スーパーギャング深夜同盟」取材
- 8.9 サマースクール実施
- 28 ATV「浅虫水族館のゴマちゃん・ラッコちゃん」放映
- 9.29 関東・東北ブロック水族館飼育技術者研究会開催
- 30
- 10.3 夜の水族館実施（17日、24日にも実施）
- 10 RAB「活彩あおもり」取材
- 11 入館者500万人達成
- 18 第13回浅虫水族館図画展開催（～11/30）

動物紳士録



リーフィー・シードラゴン

Phycodurus eques

オーストラリア南部の海藻の茂ったところに生息しています。成長すると全長約35cmにもなる大型のタツノオトシゴの仲間です。リーフィー(木の葉のような)の名のとおり、体中には多くの皮弁(海藻によく似た突起物)があり海藻に擬態しています。餌は小さなエビ類や小魚を食べます。当館では水温を18℃に保ち小さなアミの一種を主に与えています。

ピラルクー

Arapaima gigas

アマゾン川流域、オリノコ川に生息する世界最大級の淡水魚で、成長すると全長3mを超えるとされていますが、最近では2mを超えるものは大変稀になってきたそうです。鰓呼吸の他に、鰾が肺の機能を備え、空気呼吸をすることができます。水槽の前で見ていると、10~20分に1回の割合で水面に口を出し「ガボッ!」という音と共に空気を吸い込む様子を見ることができます。



ヘラヤガラ

Aulostomus chinensis

相模湾以南の太平洋域・インド洋の、主に浅い岩礁やサンゴ礁域に生息しています。体形は細長く、吻は長い管状で、先端に口があります。回りの環境に応じて体色を著しく変異させる習性があり、他の魚に寄りそって体色を変異させたり、海藻の茂みで倒立して擬態したりします。餌は魚の切り身やオキアミで、スポイトで吸い込むような感じで食べます。



表紙説明 ラッコ

穴の中から顔を出しているモモ(左)と、ユウ(右)です。詳しくは本文3ページを参照してください。

マリンスノー No.19

1998年12月発行

(財)青森県企業公社

青森県営浅虫水族館

〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1の25

☎0177-52-3377